

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年11月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970500322		
法人名	株式会社 いこいの里		
事業所名	いこいの里 さくら貝		
所在地	土佐市宇佐町字佐汐浜2841		
自己評価作成日	平成23年10月6日	評価結果 市町村受理日	平成23年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりが毎日生き活きと過ごせるよう、普段の会話の中から笑顔を引き出したり、得意なことやできることなどの能力を発揮してもらいながら、やりがいと生きがいのある生活を支援している。地域との関わりを大切に、町内会に加入するとともに、地域の行事や清掃活動に積極的に参加したり、地域向けに広報を発行するなど、地域のグループホームとして溶け込んでいくよう取り組んでいる。また、入居者の行きたい所やふる里を訪ねたり、好きな歌手のコンサートや音楽番組などに出かけるなど、さらに楽しさをプラスできるよう支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokuhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3970500322&SCD=320&PGD=39
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年11月2日

ホテル跡を活用している事業所は、耐震補強のための改造や新館を増設し、本年8月から供用が開始され、移転したユニットの暮らしも落ち着いている。デイサービスセンターやシルバーハウスも併設されており、旧館の交流スペースや芝生広場などを地域に開放し、サービスの利用者や地域住民と自然な形で交流できる環境がある。また、ボランティアの協力で行っている手芸教室や折り紙教室、音楽療法などにも地域住民の参加があり、利用者と交流している。また、恒例のさくら貝祭りは、利用者と家族、地域住民の交流の場となっている。また、地域の行事等に積極的に参加したり、利用者の希望に応じて参道でお茶やお菓子のお遍路接待をしたり、好きな歌手のコンサートに行ったり、かつての仕事仲間会いに行くなど、利用者の思いを大切にした支援に取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: さんご

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりや信頼関係を築くホームの理念、ユニットの理念を作成し、始業前に読み上げ、達成に向けて取り組んでいる。月1回のスタッフ会で取り組みの状況を話し合い、更なる向上につなげている。	地域密着型の事業所独自の経営理念と別にユニット毎の理念を作成している。朝夕の申し送り時に復唱するとともに、毎月の目標を立て、1～3カ月毎に振り返りながら利用者本位のケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域とのつながりを大切にしながらか地域の祭りや清掃活動、保育所、小中高の行事に参加するとともに、ホームで行う行事や教室に地域の方の参加もある。また、ホームの広報を量販店や消防署、地区の回覧板で配布している。	地域の行事に積極的に参加するとともに、談話室や広場を地域に開放したり、事業所の行事に地域住民の参加を得ている。また、2カ月毎に地域向けの広報を配布したり、保育園児や小中学生と交流するほか、お遍路接待をするなど、地域に溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や小中学校の職場体験の受け入れ時に、認知症の症状や対応の仕方、考え方等を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、事業所の状況報告を行い、利用者、家族、地域の代表委員から意見を聞き、話し合いの内容を家族やスタッフにも伝え、改善に活かしている。地域代表委員から情報を得て地域の行事や清掃活動にも参加している。	利用者や家族の代表、地域の代表や地域包括支援センターの職員の参加を得て、利用者や運営状況について説明するとともに、時期に応じた議題を取り上げ、意見交換を通して運営に反映させている。評価結果や課題への対応についても報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者から市の担当課に相談したり、問い合わせ等に協力している。入居相談や入居後の状況について、地域包括支援センターと情報を共有している。	市の担当課には、報告事項等を通して関係を築くとともに、地域包括支援センターとは、利用者に関する情報交換をしたり、運営推進会議を通して事業所の実情を伝えるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関は開錠し、入居者の行動制限につながる行為や言葉がけをしないなど、身体拘束をしないケアを徹底している。身体拘束に関する勉強会やグループワークも行っている。	身体拘束に関する内外の研修や勉強会を通して職員の理解を深めている。行動抑制につながる言葉遣いなどが見られた時はその都度注意している。外出傾向のある利用者を把握しており、その要因なども理解しながら職員間で連携し、納得してもらうよう支援している。また、近隣住民から見守りの協力も得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修へ参加したり、虐待を発見した際は通報義務があることをスタッフに伝えている。ホーム内でも虐待防止を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ対象に制度理解のための学習会をしている。支援が必要な事例について福祉事務所や社会福祉協議会等へ相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、書面に沿って説明し、質問等には丁寧に応じ、変更点がある場合も、その都度説明し、納得してもらいサイン等を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議、面会時などに意見を聞いている。1階玄関口にも意見箱を設置している。家族会の時は家族のみで話し合う時間を設け、ホームに遠慮することなく意見を気軽に出してもらおうよう配慮している。意見等はスタッフ間で共有し、対応している。	年2回、ユニット単位に家族と職員の食事会と家族会を開催し、家族のみで話し合う機会も設けている。面会時や電話などでも家族の意見等を聞いている。外出支援や職員の電話対応などについて意見が出され、職員間で共有しながら対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会で意見や提案する機会があり、リーダー会で検討し、対応できること、できないことなどの説明をしながら備品類の整備をしたり、スタッフのアイデアを活かし、室内装飾などしている。なお、代表者とスタッフが話し合う機会がない。	ユニット会や日々の話し合いの中で、職員の提案等を聞き、介護用ベッドやコールマットなどを整備している。また、職員処遇に関する要望等は経営体に報告、相談している。	経営体と介護現場のコミュニケーションづくりが大切であり、事業所の行事などに経営体からも参加してもらう機会をつくる取り組みを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はスタッフの勤務割等に配慮し、チームで取り組む体制づくりに配慮している。スタッフの処遇面も要望等は代表者に伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内をスタッフ間で回覧し、個人の力量に合わせた研修に参加している。また、研修報告書を作成し、ホーム研修で報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会等にて他事業者と話し合ったり相談や意見交換したりする機会があり、サービス向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族や介護者を交え、本人が必要としていることや要望などをゆっくり聞き、関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族の困っていることや不安な点などをゆっくり聞くとともに、サービスの内容や介護者の負担軽減などについて安心が得られるように説明し、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向に沿って、必要な介護や本人の望むことをくみ取り、ケアに活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にスタッフが料理を習ったり、助けもらうことも多く、食事や掃除、洗濯物の整理などを一緒に行うことで、共に暮らす者同士の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居者との面会や電話、好きな物の差し入れ、外食や外泊など、家族の協力を得ている。ホームとしても入居者と家族の関係を大切にしながら、共に支え合っていく関係を築いている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人のふる里を訪ねたり、行きつけの理容室を利用するほか、身内を訪ねたり、昔の仕事仲間などに会いに行くなど、関係が保たれるよう支援している。</p>	<p>友人の面会を受けたり、買物などの際に知人に出会ったり、馴染みの店員と会話を交わしている。ふるさと訪問の際に近所の方と交流したり、ドライブがてら施設入所中の親族を訪ねたり、かつての仕事仲間などに会いに行っている。また、家族の協力も得ながらこれまでの関係が継続できるよう支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>言い争いをする時もあるが、入居者同士で良い面も互いに理解し生活している。一緒に歌ったり、食事やおやつ時などは気の合う者同士で楽しめるよう座席位置に配慮したり、独り孤立しないようスタッフが間を取り持つなどの支援をしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約が終了しても地域で会った時には挨拶を交わし、入院中は見舞いに行ったり、相談事にも応じている。希望に応じてホームの広報も届けている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中で、会話や本人を交えてのカンファレンス時に本人の希望や意向を把握している。また、困難な場合は家族の意見や情報をもとに検討している。</p>	<p>職員は、利用者の生活歴や職歴等を念頭に置き、利用者との会話を通して思いや希望を把握している。困難な場合は、家族に相談したり、利用者の表情や行動から思いを汲み取るようにしている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に、家族構成や生活史などを本人や家族などから話を聞き、アセスメントシートで共有している。また、入居後も本人との会話などから情報を収集している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方やできること、できないことなど、その経緯や経過、状況や気づきを記録し、現状を把握している。申し送り等でも伝えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時に全スタッフと本人の意向を尊重しながら計画に反映させている。家族等には意向を毎回聞いている。担当者を中心に意見交換を行い、個人の希望を大切に、実現可能なプランを作成している。	入居当初や利用者の状況に応じて短期間の介護計画を作成するほか、担当職員と計画担当者が計画期間に沿ってモニタリングを行い、カンファレンスを通して計画を見直している。家族の意見等は面会時や電話で確認し、個別支援につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やケアプランの実施状況、気づいたことなどを記録し、申し送りもを行い、モニタリングやカンファレンスに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会に来れない家族に入居者と一緒に会いに行ったり、専門医への通院介助、入院時の洗濯物や物品購入など、家族の状況に応じて可能な限り柔軟に支援している。また、遠方であっても、入居者の馴染みの理髪店や、好きな歌手のコンサートなどにも出かけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館を利用したり、地域の親しい友人との交流、お遍路接待、神社の掃除、祭りへの出店、保育園や小中高校との交流、市町村広報でホームをPRするなど、入居者の暮らしが豊かになるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する、かかりつけ医や専門医で受診している。体調の変化時や転倒時など医師と連絡を取り、適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者、家族の希望に沿って、これまでのかかりつけ医や協力医、専門医に受診できるよう支援している。協力医による往診のほか、通院の付き添いは家族対応を基本としているが、家族の状況に応じて職員が柔軟に対応している。受診結果は家族と連絡し合うとともに、職員間は日誌等で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を利用しており、その他の時間は24時間連絡が取れる体制となっている。体調面での心配事など、小さな変化でも気軽に連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの生活、注意点、配慮して欲しい点などを病院側に伝えている。また、治療内容や退院に向けての連絡調整など、家族も一緒に話し合い、病院関係者との関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで対応できる支援内容を入居時に説明し、入居者の状態に応じて、その都度家族、医師と相談しながら可能な限りの対応をしている。終末ケアへの心構えや必要な知識の習得など勉強会もしている。看取りの事例はない。	入居時に、重度化や看取りの対応指針を説明し、利用者の状態に応じてその都度家族や主治医等と方針を共有しながら支援している。これまで事業所での看取りの事例はないが、医療機関で終末期を迎える場合は、事業所として対応できる支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法やAEDの使用方法などの講習を、年1回受けている。また、毎月、急変時の対応方法を訓練し、夜勤者は対応方法を口頭で読み上げ再確認しながら勤務に就いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、地震訓練、津波の訓練を定期的に行っている。非常時に備え、飲料水や非常食を3日分備蓄している。建物は地域の避難場所として提供できるよう新築、改造している。	毎月の消防訓練や2カ月毎の地震想定での避難訓練のほか、夜間想定での訓練も実施している。運営推進会議のメンバーを通じて3～4名の地域住民の参加を得ている。非常用の飲食料品のほか備品類の準備もしている。また、改造、新築後の建物は地域の避難場所として検討されている。	運営推進会議でも災害対策について話題にあがっているが、災害時には地域の協力が欠かせないので、地域の防災関係者にも会議に参加してもらいながら、さらに地域住民の協力を得た防災訓練の実現を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の声かけの仕方、入浴時や排泄時の配慮など、言葉遣いには特に気をつけるよう、折にふれてスタッフへの意識づけをしている。また、介護場面で気になる対応があった場合は、その都度注意している。	排泄や入浴などの介護の場面で、利用者の誇りやプライバシーを損なわない声かけや対応をしている。特に、言葉遣いは尊厳の保持に共通することを認識し、折りに触れユニット会などで周知している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の希望を聞いたり、外食時には好きな物を選んでもらうなど、自分の意思を表してもらったり、選択してもらう場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、入浴日や時間など、その人のペースや意向を大切にしながら支援している。対応できない場合はお断りし、日を替えたり、時間を替えるとともに、代替支援をなどの工夫をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外食時には普段と違う服を着たり、バッグを持つなどのお洒落をしている。また、行きつけの理容院を利用し、好みに応じた髪スタイルを楽しんでいる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者応じた役割を担ってもらい、旬の野菜や果実を多く取り入れたり、地域の行事に対応した料理などの献立を考えたり、調理の仕方をスタッフも習いながら準備や片づけをしている。食事中も会話をしながら楽しく過ごしている。	ユニット単位にその日の食材を利用者と一緒に確認しながら献立を作っている。利用者の能力に応じて職員の買い出しに同行したり、調理の下ごしらえや配膳、食器洗いなどを行っている。また、利用者のペースを大切に、会話などもしながら和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎回確認している。水分は食事やおやつの後、その他の時間でもいつでも摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。必要に応じてうがいや義歯の洗浄などの介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記録から排尿間隔を把握し、尿意の訴えに応じたり、時間を見ながらトイレで排泄するよう誘導支援をしている。	利用者毎の排泄パターンを把握し、尿意などのサインにも留意しながら、できるだけトイレで排泄するよう支援している。1日を通して利用者に応じた排泄用品やポータブルトイレを使用するとともに、便座にゆっくり座る習慣をつけるなどの工夫をしながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やさつま芋を飲食したり、適度な運動をすることにより、できるだけ自力排便できるよう支援している。こうした取り組みにより緩下剤を臨時的に使うこともなくなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるよう準備しており、入居者の希望に沿って朝から夕方までの時間帯で、自分の好きな時間に入浴してもらうよう支援している。	午前、午後の利用者の希望する時間帯に入浴支援をしている。毎日入浴したり、1日置きの入浴を決めている利用者もいる。拒否のある場合は時間を替えたり声かけの工夫や職員が交替するなどして、2日に1回は入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファで休息したり、居室で昼寝をしたり、好きな時に横になったり休息できるようにしている。夜の入眠も個人の好む時間に入床してもらうようにしている。定期的に布団も干し、安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服用している薬の内容や量、副作用などをスタッフが共有できるようにしている。症状等に変化があった場合は、すぐに医師や看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活史や本人の得意なことなど、生活の中で活かせる場を多く取り入れている。外出や着物、趣味の読書や編み物を楽しむほか、よさこい祭りやカラオケ、居酒屋、歌手のコンサート、歌謡ショーなど、本人にとって楽しや気分転換につながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望する場所へ外出している。散歩や買物、家族や大切な人に会いに行く機会も作っている。花見や紅葉見物、みかん狩り、リンゴ狩り、コンサート、各種のイベントなどに出かけている。	日常的に事業所周辺や敷地内で散歩や外気に触れる支援をしている。利用者の希望に沿って買物に行ったり、ドライブなども頻繁に対応するとともに、季節の花見や行楽などにも出かけている。好きな歌手のコンサートに県外まで行くなど、利用者の思いを大切にしながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持っている方や、預かっている方もいるが、買物時などには自分で支払いをしてもらったり、スタッフが見守りながら支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望に沿って、スタッフが協力しながら家族に電話をしたり、家族に手紙を書くなどの支援や機会をつくっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は不快な音や光に配慮するとともに入居者が使用しやすく、親しみやすい雰囲気づくりをしている。花を飾ったり、ベランダで花を育てたり、旬の果物を置くなど、季節感を採り入れている。リビングは移転前の広さからするとやや狭いが、時間を経て入居者の暮らしにも馴染んでいる。	ホテル跡の建物は耐震工事を行い、一部のユニットは新館に移っているが、各ユニットの特性を活かしながら、生け花や季節の飾りつけ、手作りのカレンダーを貼るなど、生活感のある共用スペースとなるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファや、廊下にも畳やベンチを置き、休息できるようにしている。ベランダにも自由に出られるようにしている。狭い中でも、その人の居場所づくりの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、自宅で使っていた物をできる限り持ち込んでもらっている。家族の写真や好きな人のポスターなども貼っている。	整理ダンスや衣装ケース、椅子や机のほか、テレビやぬいぐるみ、家族写真や歌手のポスターなど、利用者それぞれの個性が窺える居室となっている。また、職員と話し合って家具等のレイアウトをしたり、利用者の生活習慣に沿って畳敷きにしたりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室には手摺を設置している。居室には本人が分かるよう目印を表示し、手洗いも大きく表示している。夜間はトイレの電気を常時つけ、場所が分かるよう配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名： あさり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と支え合い、信頼関係を築くための理念を掲げ、毎日朝夕の引き継ぎ時に理念を唱和している。また、月1回のスタッフ会では理念を振り返りながら共有し、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、保育所や小中学校、高校の行事に参加したり、日常的に地域の量販店を利用している。また、ボランティアによるレクリエーション(ミュージックケア・手芸教室、折り紙教室)にも参加して交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの理解を深めてもらうため、2カ月に1回、広報を地域に配布している。また、小中学生の職場体験を受け入れ、理解や支援の方法を学んでもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開き、報告や提案などについて意見交換をしている。話し合いの内容を家族やスタッフにも伝え、改善できるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の参加があり、運営状況を伝え、意見を出してもらっている。市の担当課からの問い合わせ等にも協力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内外の研修に参加したり、ユニット内で話し合い、拘束をしないケアについての理解を深め、実践している。今後も、身体拘束をしないケアについて学習していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止についての研修に参加し、虐待防止を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の活用については家族と管理者が話し合っている。また、制度の理解を高めるため、ホーム内で学習会をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約内容等を説明し、質問や疑問点に丁寧に答え、理解と納得を得ている。改定の際にもその都度説明し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会で意見、要望を聞くようにしている。また、面会時や電話などで家族の意向等を個別に聞いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会で意見や提案する機会があり、リーダー会で検討し、対応できること、できないことなどの説明をしながら備品類の整備をしたり、スタッフのアイデアを活かし、室内装飾などしている。なお、代表者とスタッフが話し合う機会がない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はスタッフの勤務割等に配慮し、チームで取り組む体制づくりに配慮している。スタッフの処遇面も要望等は代表者に伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の講演会や研修会へ参加している。また、ホーム内研修も月1回行っている。研修後、報告書を作成し、ホーム内研修時に発表し、共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等の機会を通じて交流し、サービス向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の状態の情報収集をしたり、本人の思いや不安などについてよく話を聞き、安心してサービスを利用してもらうように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族の困っていることや要望等をよく聞き、安心と納得を得るよう信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの要望に応じたサービスの提供について検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重しながら、共に支え合って暮らしていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に入居者と一緒に外出したり、外食するなどの協力を得ながら、家族とスタッフが共に本人を支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の意向も聞きながら、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士やスタッフを交えて歌を唄ったり、関わりや支え合う場面をつくっている。トラブルの際にはスタッフが仲を取り持つようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も見舞いに行ったり、家族と会った際には状況を尋ねるなど、関係を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望を、言葉や行動、表情などから把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの暮らし方などを聞き、スタッフ間にはアセスメントシートにより共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化も記録等で、よく留意し把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの変更時には、本人、家族からの意見を聞くとともに、担当スタッフの気づきなどを基に、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入し、スタッフ間で共有しながら日々のケアやケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や外出支援などの本人、家族のニーズに可能な限り柔軟に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物や図書館の利用、神社の清掃など、日々の支援と地域資源との関わりを通して、入居者の豊かで楽しい暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による2週間に1度の往診があり、事故や体調の変化があった場合は、すぐに連絡が取れるようにしている。通院介助は家族対応を基本としているが、状況に応じてスタッフが柔軟に対応している。受診結果は業務日誌や看護日誌、申し送りにより共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師の来訪がある。看護日誌に記入し、相談し、指示等を受けている。24時間連絡が取れる体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ホームでの生活や状態等について病院側に伝え、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで対応できる支援内容を説明し、入居者の状態の変化等に応じて、本人、家族、医師と十分に話し合い、可能な限りの対応をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導で年1回、救命救急法の講習を受けている。また、月1回、スタッフ会で急変時の対応の実施訓練をしたり、毎日夜間の申し送り時には急変時の対応を口頭で確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は月1回、地震避難訓練は2カ月に1回実施している。地域の方にも協力依頼を行い、火災訓練への参加を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニットの理念にも掲げ、常に意識を持って人格を尊重した言葉かけに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や買物など、本人に希望を表出してもらったり、選択してもらうなど、場面場面に応じて働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、できるだけ本人のペースに合わせて過ごしてもらうよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	白髪染めを行ったり、移動美容院を利用している。また、季節に合った服装になるよう声かけするなど、さりげなく支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけなど、入居者のできることをスタッフと一緒にしている。食事の楽しい雰囲気づくりにも配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮するとともに、水分の摂取量も把握し、個々に応じて随時摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。自分のできない入居者にはそれぞれに応じて介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、排泄パターンを把握し、誘導や声かけをしている。また、入居者によっては、尿意の様子など観察しながらトイレで排泄するよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食物や牛乳などの水分摂取に配慮したり、日々の散歩や毎朝のラジオ体操などで運動不足を解消しながら便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ希望に合わせ、個人の状態によりタイミングを見計らって支援している。介助の必要な方が多いため、希望の時間をずらしてもらうなど、相談しながら支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	思い思いに居室やホールで休んでもらったり、生活習慣に合わせて昼食後に昼寝をしてもらうなど、個々に支援している。夜の入眠も本人の好む時間に入床してもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは入居者それぞれの服薬情報を共有し、理解できるようにしている。服薬の状況や症状の変化など確認しながら支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味、好みに合わせ、歌や外出など、気分転換が図られるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や買物に行くなど、できるだけ戸外に出かけるようにしている。本人の希望や家族の協力も得て、ケアプランに沿って個別に外出支援をしている。また、季節毎の行楽や地域の行事への参加も計画し、実行している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談しておお現金を保持し、買物時には自分で好みの物を買ひ、支払ってもらうなどの支援をしている。ホームで預っている方も買物時にはスタッフが付き添い、見守りながら支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望に応じて家族に電話したり、スタッフが取り次ぐなどして支援している。家族が遠方にいる方は、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節感を採り入れた工夫をしている。できるだけ生花を飾るようにしている。また、音や光、温度などにも配慮し、居心地良く過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座ったり、食卓椅子に座ったり、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、これまで使用していたタンスを置くなど使い慣れた物や花を活けたり、写真を飾るなどの工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、個室、トイレ、廊下に必要に応じて手摺を設置している。トイレは居室近くにあり、自由に使用できる。自分の居室も分かるよう、名前や花などを飾っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します						
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
					○	2. 家族の2/3くらいと
						3. 家族の1/3くらいと
						4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○			2. 数日に1回程度	
					○	3. たまに
						4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
					○	2. 少しずつ増えている
						3. あまり増えていない
						4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
					○	2. 職員の2/3くらいが
						3. 職員の1/3くらいが
						4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
					○	2. 利用者の2/3くらいが
						3. 利用者の1/3くらいが
						4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
					○	2. 家族等の2/3くらいが
						3. 家族等の1/3くらいが
						4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○				1. ほぼ全ての利用者が
						2. 利用者の2/3くらいが
						3. 利用者の1/3くらいが
						4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

ユニット名: サザエ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の理念を掲げ、毎朝、夕の引き継ぎ時に唱和している。また、月1回のスタッフ会にて日々のケアを振り返り、実践につなげている。また、ユニットの理念も掲げ、同様に唱和し、毎週取り組みを振り返り、共有しながら実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(祭り、清掃、運動会、お遍路接待等)に積極的に参加するとともに、地域に交流スペースや広場を開放し、地域に溶け込んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームを理解してもらうため、2カ月毎に広報を地域に配布している。また、小中学生の職場体験を受け入れ、理解や支援の方法を学んでもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催し、利用者、家族、地域代表の委員にホームの運営状況を報告し、意見や提案を受けてサービス向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の参加があり、運営状況を伝え、意見なども出してもらっている。市の担当課からの問い合わせ等にも協力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、今後も全スタッフの身体拘束に関する理解を深め、ホーム研修でも学び実践につなげいくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修などを通して職員に徹底している。身体的な虐待については入浴時や更衣時に確認し、見過ごすことがないようにスタッフ間で気をつけている。また、精神的な虐待についても、日頃からスタッフの態度や言葉遣いに注意し合い、防止につなげている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内で制度について学習し、全スタッフが理解できるよう努めている。制度の活用は家族と管理者が話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容等を一項目ごと読み上げ、時間をかけて説明し、質問や疑問点にも丁寧に応じ、理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で利用者、家族の意見を出してもらったり、家族会では、家族だけで話し合う場も設けている。また、面会時にも意見を聞き、意見等は運営に反映させている。意見箱には特に要望等は出ていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会で意見や提案する機会があり、リーダー会で検討し、対応できること、できないことなどの説明をしながら備品類の整備をしたり、スタッフのアイデアを活かし、室内装飾などしている。なお、代表者とスタッフが話し合う機会がない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はスタッフの勤務割等に配慮し、チームで取り組む体制づくりに配慮している。スタッフの処遇面も要望等は代表者に伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講演会や研修には積極的に参加するよう支援している。また、毎月1回ホーム内研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所と相互訪問を行うなど交流している。また、講演会や研修会の機会に他の事業所と意見交換を行い、サービスの向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、本人のこれまでの生活歴等の情報を収集し、それに基づき安心して生活が送られる環境を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族の困っていることや要望等をよく聞き、安心と納得を得るよう信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの要望に応じたサービスの提供について検討し、事業所としてできる限りの支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、掃除や家事、買物等を入居者とスタッフが一緒に行い、共に暮らす者同士の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の事情で疎遠になっている現状もあるが、ホームの行事等への参加を働きかけたり、入居者の現在の状態や体調などを連絡し、共有しながら共に支え合っていく関係づくりに努めている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>地域の量販店に買物に行ったり、実家の周辺に出かけたりしている。また、友人が訪ねて来てくれることも多々あり、居室でゆっくり過ごしてもらうよう配慮している。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>何を行うにしても入居者同士と一緒に協力し合ったり、皆が関わりが持てるような場面づくりをしたり、気の合う人と一緒に過ごせるよう配慮している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後も家族に会えば声かけし、様子を聞いたり、入院先に見舞いに行き相談に乗るなどしている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人との会話や仕草などから希望や思いを把握している。把握が困難な場合はスタッフ会等で本人本位に検討している。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人や家族から聞き取った情報をもとにアセスメントを行い、個々の生活歴や生活環境等を把握している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や表情を見ながら変化等に応じてケアプランも中止し、現状の把握と共有のため業務日誌や看護日誌、経過表などに記録し、申し送りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直し時には、本人、家族の意見も聞き、必要に応じてアセスメントも行い、カンファレンスで現状に即したプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護経過を記録し、申し送りやスタッフ連絡帳にも記入して情報を共有し、日々のケアやプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に沿って、受診時にスタッフが付き添うなど、柔軟に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お遍路接待や地域のボランティアの協力による手芸教室や折り紙教室、地域の行事を通して、入居者が暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医に受診したり、協力医の往診を受けている。他の病院への受診は家族対応としているが、家族の都合に応じてスタッフが同行している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護日誌に記録するとともに、週に1回の訪問看護の際に入居者の身体状況を説明し、適切な受診や看護を受けている。また、24時間看護師と連絡を取れる体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを提供したり、面会時には病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで対応できる支援内容を入居時に説明し、入居者の状態に応じて、本人や家族、医師と十分に話し合い可能な限り支援している。また、看取りに関する外部研修やホーム研修も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導で年1回、救命救急法の講習を受けている。また、スタッフ会時に実践訓練をしたり、急変時や事故発生時の対応マニュアルを朝夕の申し送り時に唱和するなど、意識づけをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の日に地震避難訓練を行ったり、運営推進会議を通して地域の方に協力を依頼している。災害時に備え3日分程の食料、水の備蓄をしている。また、建物は地域の避難場所として提供できるよう新築、改造している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた言葉かけを行うなど、人格を尊重し、プライバシーの確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話せる方には希望を聞いたり、言葉に表せない方については表情や態度から読み取りながら、無理強いせず自己決定してもらうよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	横になりたい時には横になり、座りたい時には座りたい所に座ってもらうなど、できる限り本人のペースに合わせ、一日を個々に合ったスタイルで過ごしてもらうよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を着てもらい、入浴後には必ず髪を整えている。また、行きつけの理容室を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	力量に合わせスタッフと一緒に食材の皮むきや準備、片づけなど、できるだけ関わりを持ってもらえるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定をしながら食事の摂取量の確認や調整を行うとともに、水分も個々に応じて、食事やおやつ以外にも水分を摂ってもらうようにしたり、少しずつの量で回数を増やすなど工夫しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており、歯磨きが困難な方や不十分な方についてはスタッフが手伝っている。また、必要に応じ義歯洗浄剤も使用するなど清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、個々の排泄パターンに合わせ声かけや誘導支援をしている。また、尿意の意思表示があった場合は、その都度トイレに誘導したり、夜間も個々に応じて声かけや誘導等の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や毎朝のラジオ体操など体を動かすようにして、便秘予防に取り組んでいる。食事は普通食であり、便秘気味の方にはなるべく水分を多く摂ってもらうようにしている。なお、状況に応じて主治医に相談しながら下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂の好きな方は毎日入浴してもらうなど、入居者の希望に合わせて概ね2日に1回は入浴している。体調不良時などは全身清拭をしたり、本人が嫌がっている場合はスタッフが交代したり、時間を経て入浴してもらうなど、工夫しながら支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思や体調に応じて、居室で休んでもらうよう支援している。また、日中の活動を通して夜の安眠につなげるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容が分かるようにしている。特に薬に変更があった場合は、症状等の観察を確実に行うようにしている。副作用などについてスタッフで学習する機会が必要と考えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランに基づき、個々が協力し、掃除、洗濯物の干しや取り込み、調理を行うとともに、好きなテレビやビデオを見たり、パズルを楽しんでもらうなど支援している。また、希望に沿って遠足や花見、みかん狩り等の支援もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により買物や庭での散歩に出かけ、できるだけ外の空気に触れるようにしている。また、四季の花見や地域でのイベントや祭りにも出かけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持っている方は建内の自動販機でジュース等を買ったり、買い物時や外出時に自分で支払うなどしている。ホームで預っている方についても本人に支払ってもらう場面づくりをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望に応じて自分で電話したり、スタッフが電話を取り次いだりしている。また、かかってきた電話を取り次ぐこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は家庭的な設備となっており、その場にあった工夫もしている。音や光も、その場その時に合わせるよう配慮している。ユニットは3階にあり、どこからでも庭や山を眺め季節感を感じることができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、廊下にも長椅子を置くなど、独りで好きな場所でゆっくりと過ごし、また、リビングでは気の合う者同士が会話を楽しんだり、テレビやビデオを見て、のんびり過ごせるようにしている。時には訪室し合い会話も弾んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスや布団を持ち込んでもらっている。また、縫いぐるみや家族写真をはじめ、位牌なども置いている。壁には好きなスターのポスターを貼っている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ、居室の廊下が分かりやすいように大きな文字でプレートを掛けている。また、流しの高さも利用者にあったものにするなど、一人ひとりが意欲的に生活できるよう配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				